

く見つからないのである。今は、少し改善してはいるが、インターネットを使っても見つからないのである。日本の航空会社に尋ねても、「一人ではなかなか行けるところではないですよ」という返事しか返って来なかったらしい。

観光振興、それも国際観光振興を図るためには、こうした旅行の前段階での情報（計画情報）や、現地での滞在時の情報（行動情報）を十分入手できるように、環境整備していかなければいけない。日本語だけではなく、諸外国に対応した言語で整備する必要がある。

また、海外に旅行に行く場合、ガイドブックは色々あるが、これを事前にいくら読んでも、まるで頭に入らない。しかし、一度でも現地に行ってみると、資料で見たことのある情報がどんどん頭に入ってくる。やはり何事も、現地を自分自身の目で見てくるのが大切なのである。リアルな体験が必要である。このようなリアルな体験を、観光に訪れた人から発信していただく仕組みを作ることも重要である。

この西南地域というエリアの情報を売り込むためには、やはり自分たちの資源をもう一度見直す作業が必要であるが、誰かが作り上げたコマーシャル的な情報ではなくて、相手の心に伝わる情報を地域に住んでいる人たちが自ら作ることが重要だと考えている。その時、相手の心に響くような、嘘（飾りごと）ではなくてリアルな物語、本物の物語を作っていかなければならない。

従来は大きな広告宣伝費を使ってメディアに載せていたが、今はそれだけではなくて、例えばインターネットのホームページで自ら発信する、ブログを活用する、メールを活用するなど、色々な方法が可能である。そういう仕組みをまず作って、地域のストーリーをリアルに作りあげていくことが重要である。情報の発信力を向上させることである。これが地域力にも繋がると考えている。

その際にネックになるのが、情報通信環境、ブロードバンド環境である。西南地域も、まだまだ十分なブロードバンド環境が整備されていない。現在、総務省

四国総合通信局と連携して、四国のブロードバンド環境整備と、地域コンテンツの連携・利活用に向けた具体的な仕組みづくりを行っている。これからの地域力向上には、やはりブロードバンド環境の整備が特に重要となると考えている。

#### （４）大学と地域とのパートナーシップ

第四の課題は、大学と地域とのパートナーシップである。高知大学では、西南地域では四万十市とも連携協定を結んでいるが、これからは大学もどんどん地域に出向いていく必要がある。今まで、大学は産学連携という形で産業育成やベンチャー企業育成、地域企業の支援に重点を置いていたわけであるが、これから重要になるのは、地域における「まちづくり、人づくり、地域づくり」などの連携支援である。私自身も今年から大学でプロジェクトを立ち上げ、大学、県、市町村、NPOなどの色々な組織と連携して、産業だけではなく、まちおこしや、地域づくりのための社会的な環境・基盤を作っていきたいと考え活動を開始している。

最近、国では省庁横断的な政策を推進している。地域においても、例えば、農業分野を強化するための観光支援などを、どんどん国に提案してゆくことが重要である。「観光」と「農業」など、こうした複合的な政策の受け皿を地域でつくり上げていくことも、これからの課題である。

#### （５）人的ネットワークの重要性

3年半前、政府から「地域産業おこしに燃える人」の33人の中に選定していただいた。首相官邸に呼んでいただき、当時の小泉総理から「地域には本来素晴らしい、光るものがたくさんある。それをいかに輝かせるかが課題であり、地域で一生懸命もがいて地域おこしをしている方を支援していただきたい」との激励の言葉をいただいた。その後、昨年8月には、「地域産業おこしに燃える人」のメンバーでNPO的な組織を立ち上げ、現在は島根県の沖にある隠岐、海士町の活性化に取り組んでいる。また、今年3月には「地域